

コロナ対策を斬る

空気感染対策を取らないのは何故か 感染は専門家と行政の不作为によって拡大している

(株)あかりみらい代表取締役 越智文雄氏



(お・ち・ふ・み・お)1957年北大電業O
12月札幌生まれ、北海道事C
法学部卒業後、北海道電気
力入社。97年電代に
連合会企画部長、札幌
P3に立ち合い、2008
北海道洞爺湖サミット環
境総合展事務局長、日本
問題・エネルギー問題、
危機管理の専門家。札幌
除菌連合会長、札幌人
かができる経済人
ワーク主幹。64歳

新型コロナウイルスに北海道知事も総理大臣も感染してしまった。マスクをしていても、手洗いをしても、アクリル板を置いてあっても感染は防げない。今年3月に国立感染症研究所はやっと感染の主原因が空気感染であることを認めた。昨年5月に米国CDCが空気感染を警告し手指感染の可能性は低いと発表していたのになぜ日本でだけ異様な奇形な感染対策が続いているのか。犯罪的な不作为を告発する。

4カ月にわたってカーボンニュートラルについて論じたので次は新型コロナウイルスについて論じたい。社会は司々の役割を果たすことよって成立している。今これほど感染が広がりが3年過ぎても新たな対策が打ち出されないのは、ひとえに「専門家と言われる人たち」がその役割を果たさないことに尽きる。その対策を「専門家と言われる人たち」に任せきって、自ら調査学習することを放棄し、本来とるべき対策を取らずにいる行政の不作为が絶望的な感染拡大を招いている。

私も危機管理の専門家の端くれとして、日本除菌連合会長、(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事に就任し、除菌技術、製品を開発し除菌方法を実践・普及させる専門家集団の片隅にいる人間として慚愧に絶えない。

が飛ぶのは防止できても呼気の出入りは防げない。後はウイルスの量と個人の免疫力の問題である。ワクチンを打っていても免疫力のある人にはかからない。現にマスクをして手洗いをし、ワクチンを打って、グータッチしかない岸田首相も鈴木知事も感染している。すでにウイズコロナの時代になっているのである。ではなぜ日本ではこの新型コロナウイルスの主たる感染原因である空気感染対策を取ろうとしないのか。それ以前に、世界が認めている空気感染の事実を日本の専門家と厚生省だけが頑なに認めようとしなかったのはなぜなのか。少々遡って論じる。

CDCガイダンスで空気感染を警告

日本の専門家や厚生省は何かと言えば「WHOがこう言った」「CDCがこう発表している」と引用し、わが国独自の研究や実験をほとんどしていないが、このCDCの発表をあえて意図的に無視する場面があった。昨年5月にCDCの新型コロナウイルスの感染原因に関するガイダンスで「新型コロナウイルスはエアロゾル感染が主原因で接触感染の可能性は低い」という重大な発表が行なわれた。もとより風邪でもインフルエンザでも麻疹でも感染者の近くに寄ると感染するというのはアメリカの機関に教えてもらわなくても常識である。ところが日本の専門家と厚生労働省はこの重大なガイダンスを無視し、この警告に対する対策を取らずにきた。インターネット情報以外では主要メディアも大きく取り上げなかった。政府は頑なに

世界中で日本だけが異様な状況にあることを皆さん認識しておられるだろうか。1億2千万人が風の吹く屋外でもマスクを外さず、外科の手術室レベルの手指消毒をスパーマーケットの出入りでいい、エレベーターのボタンを押すだけでアルコールの消毒を行っている。神経症的異様な風景はさまざまあるが、今回問題視するのはこれほどの愚かな社会を作ってしまった元凶が一部の専門家と官僚とメディアの利権によることが告白されないことである。

空気感染を隠し通した専門家たち

皆さんエレベーターに乗るときに息を止めている方も多いのではなからうか。コロナ報道に洗脳されて深刻な神経症にかかってしまった人たちに飛沫感染と接触感染の対策のみを続け、行動自粛や飲食に注目を集め多くの飲食店を廃業に陥れたのである。今でこそ空気感染を否定する人間はいないが、日本では今年の3月28日に国立感染症研究所が「そおつ」とホームページに書き足すまでは日本では空気感染は公に認められていなかったのである。これを専門家の重大な不作为、行政の犯罪的な不作为と言わずして何としよう。空気感染が原因の病気に接触感染の対策をとり1億2千万人に3年間薬用アルコールで手を洗わせていたのである。なぜこんなことが続いたのか。

空気感染に目をつぶっていた罪

CDC発表の当時、デルタ株の毒性は高く、症状は重く、死亡者も多く出ていた。毎日メディアはお祭り騒ぎとも思える番組を企画し垂れ流していた。テレビ常連の「専門家と言われる」ある自治体のアドバイザーを務めるクリニックの院長は、企業訪問してその感染対策の不備を指摘するという企画でアルコールによる手洗いやアクリル板や窓を開けての換気などを指導した。その中で1番問題となるはずの窓のない会議室の感染対策について、その会社の総務課長が「壁掛け式の空気清浄機を入れようと思っっている」と発言したと同時に取材場面はカットされた。

日本の民放は朝8時から夕方6時までほとんどのスポンサー枠を洗剤・薬品メーカー、アルコールメーカーに買い占められている。これをバブル(泡)アワーと言う。洗剤メーカーや薬品メーカー

とって、停電でエレベーターに閉じ込められるシーンが一番恐ろしい悪夢なのではないだろうか。乗客のうちひとりが発熱してこれから病院に行くうとしている人だった場合、停電復旧までの数時間を密室に閉じこめられたら、お互いがマスクをしていようが呼吸をしている以上、狭い空間でウイルスをたっぷり肺の中に吸い込むことになる。この状態が日常的に起きていたのが昨年と今年の夏の爆発的感染である。職場であろうが学校であろうが日本中に今年の猛暑で窓を開けて換気をした人がどれだけいただろう。窓を閉めた大勢の人間がいる空間で感染者が何時間も呼吸をして全開のクーラーが室内のウイルスの混じった空気循環を続けている。サララップのマスクでもなければマスクは何の役にも立たない。くしゃみの飛沫

のスポンサーの圧力か、テレビ局制作側の付度か。日本ではアルコール以外の感染対策用品はメディアが自主規制してしまい視聴者に情報が伝わらないのである。なぜか。すぐに揮発するアルコールはモノについては効くが空気感染対策には効かない。閉鎖された空間にアルコールを噴霧することは人体に害があり火災爆発の危険があるからである。空気感染が原因という事実が国民に知れれば政府は手指消毒以外の対策に重点を置いてしまう。せっかく国から500億もの莫大な補助金をもらい生産体制を拡大したアルコールが売れなくなるのである。せっかく毎日のワイドショーで国民すべてを洗脳し、神経症になった国民が手の皮膚が爛れようとも薬用アルコールを使い続ける国になつたのだから、この夢のような日本の業界利権を永遠に続けたい。コロナは怖い、手を洗わないと感染するとメディアに言わせ続け、「空気感染については知らせるな」「空気清浄機や次亜塩素酸水の空間除菌には反対しろ」と専門家と言われる人たちと一部厚生省官僚に圧力をかけたのだと想像する。

いずれ裁判でも決着がつくだろうが、日本で空気感染が認められず空気感染対策が普及しなかったのは一部アルコール・医薬業界の利権とそれに抗わなかった専門家とメディアから発生したことに間違いはないと私は考えている。

(次号に続く)

詳しくは次亜塩素酸水溶液普及促進会議ホームページをご覧ください。